

「アジア・太平洋の新秩序」研究会 第7回研究会 議事要旨

1. 開催日時：平成27年5月11日（月）18：00－20：00
2. 開催場所：東京財団 会議室 A（東京都港区赤坂1－2－2日本財団ビル3階）
3. 出席者（敬称略） ※共同主査

委員

- ・秋山昌廣※ 東京財団理事長
- ・川口順子※ 明治大学研究知財戦略機構特任教授/東京財団名誉研究員
- ・浅野 亮 同志社大学法学部教授
- ・秋元諭宏 三菱商事株式会社理事 グローバル渉外部長
- ・伊藤 剛 明治大学政治経済学部教授
- ・齊藤敏夫 防衛省防衛研究所長
- ・津上俊哉 津上工作室代表
- ・豊田正和 日本エネルギー経済研究所理事長
- ・菱田雅晴 法政大学法学部教授
- ・平沼 光 東京財団研究員
- ・渡邊昭夫 平和・安全保障研究所副会長/東京大学名誉教授
- ・渡部恒雄 東京財団政策研究ディレクター(外交・安全保障担当)

(敬称略、各項五十音順、※共同座長)

事務局

- ・関山 健 事務局長/東京財団研究員/笹川日中友好基金室長/
- ・鎌江一平 事務局長補/明治大学国際総合研究所共同研究員
- ・花田美香子 事務/東京財団政策研究アシスタント
- ・上田尋一 事務/明治大学国際総合研究所研究支援員

4. 配布資料

- 議事次第
- 研究会出席者リスト
- 2015 年度「アジア太平洋の新秩序」研究会概要
- 渡邊昭夫氏講演資料「In search of a new vision of “great powers” in the global community」

5. 議事（要旨）

（1）講師講演

講師：渡邊昭夫（平和・安全保障研究所副会長/東京大学名誉教授/
青山学院大学名誉教授）

テーマ：米中関係の将来展開と日本

In search of a new vision of “great powers” in the global
community

大国とは何か？

- 大国の定義の仕方は色々があるが、理論的な面からのアプローチではなく、大国の要件としての責任、つまり「大国の役割とは何か？」が本論の中心となる。
- ランケ（歴史家）の『強国論』（昭和 15 年出版。大国論の古典）によると大国とは「他の国が寄ってたかっても負けない強い国」。つまり、フランスの絶対王政での中央集権国家に代表されるような同盟国を必要とせず自国を保って行ける一人前の国になれば強国であるという感覚がそういった大国像を形成した。しかし、これは大国の役割を示すには十分な定義にならない。
- 大国の役割を責任、すなわち、全体としての国際システムの在り方に対する責任とすれば、「大国」の概念は、国際秩序との関連で定義される必要がある。
- H・ブルはアナーキカル・ソサエティで大国の責任を議論している。「特に重要な役割は、大国相互、大国対大国の関係を管理することである。統治国そのものを越えた枠組を管理するのが大国。この二重の役割を持って国際秩序に貢献するのが大国の役割である」この議論からすると大国は国際秩序に積極的な役割を持

つべきと言う議論になろう。

- E・H カー『危機の二十年』、H・モーゲンソー『国際政治』⇒国際政治学の古典。両著書とも大国による国際統治、すなわち、大国が中心になって国際社会、国際秩序を作って行った歴史、あるいは国際秩序で担う役割があるのが大国であると見ている。
- 大国の具体的な役割
 - 大国間の管理⇒戦争の管理
 - グローバルイシューへの対応

大国とアジア・太平洋地域

- 日本・中国・アメリカ、この三大国が責任を持って作り上げて行くのがアジア太平洋の秩序である。また、三国は大国として相互を管理し、かつ、グローバルな規模で進行するトレンドに即応した地域秩序を形成していかななくてはならない。
- まず、三国間の管理で最も重要なのは日米の緊密さを維持して行くことが出発点となる。戦後日本の対外政策における日米基軸論からするとこれは難しいことではない。ただし、ここで間違っはいけないのは、中国の台頭に対抗するために日米基軸論があるのではなく、中国の台頭に伴う困難や葛藤を乗り越えて安定した地域秩序を形成するために日米関係があるという点である。これが日本の長期的戦略目標でなければならない。短期的には日米 vs 中国のような局面も出て来ることがあり得るが、これは戦略的目標ではなく、逆にその管理（manage）こそが重要となる。

日米「同盟」の考え方

- 地域の安定と言うのを日本の長期的な戦略だとすれば、日米「同盟」という言葉の使い方は適切ではないのかも知れない。alliance という第3国に向けた排他性を含有する概念よりも association という大きな目標に賛同できる国と国の連携と言った方が良いのではないか。

(2) 研究会ディスカッション

研究会のディスカッションでは、上記講演を踏まえて以下の点を中心に議論した。

- アジア太平洋において何らかの秩序が補完、あるいは代替のいずれかのために形成されるには大国の責任が背景にないと成立しないのか。
- 中国が提唱する「新型の大国関係」は米中以外も包含し得るか。また、この概念は大国による秩序管理論か勢力圏二分論か。
- 国際秩序の形成に当たって中国政府は責任をどう捉えているか。
- 国際秩序と中国の関係で中国はどのような役割を新たに見出しているのか。
- 中国の現行の体制と価値観維持は秩序形成にどのように関係するか。
- これまで同様大国が国際秩序形成・維持・運営にリーダーシップを取るのか。
- アジア太平洋の中小国や ASEAN を中心としたまともは、今後の秩序形成に影響は及ぼし得るか。
- 中国の孤立化と安全保障のジレンマをいかにして回避するか。
- 日米は乖離せずに建設的関係を維持運営して行けるのか。
- 日本の経済力の縮小に伴って薄まる日本のプレゼンスに対する認識という現実を前に、日米中の三国間関係において見受けられる変化は何か。プラス・マイナス面をどう捉えるか。
- AIIB は中国にとって（国内体制維持や賛同国の増加、自国に有利な国際秩序の形成など）国益追求を基礎とするものなのか、経済力をてこにした外交にシフトしようとするものなのか。

(3) その他

- 次回研究会は研究会メンバーの平沼光氏（東京財団研究員）がエネルギー安全保障について講演をし、豊田正和氏（日本エネルギー経済研究所理事長）がコメントを行う予定。
- 月例研究会として今年度も研究会を進めるが、当初の予定には既存の先行研究をベースにした経済安全保障と安全保障の議論の整理が入っておらず、どこかの時点で検討が必要。

以上